

## 冰心《春水》亲笔原稿在九州大学发现

中里見，敬  
九州大学大学院言語文化研究院：教授

王，朝阳

<https://hdl.handle.net/2324/1932348>

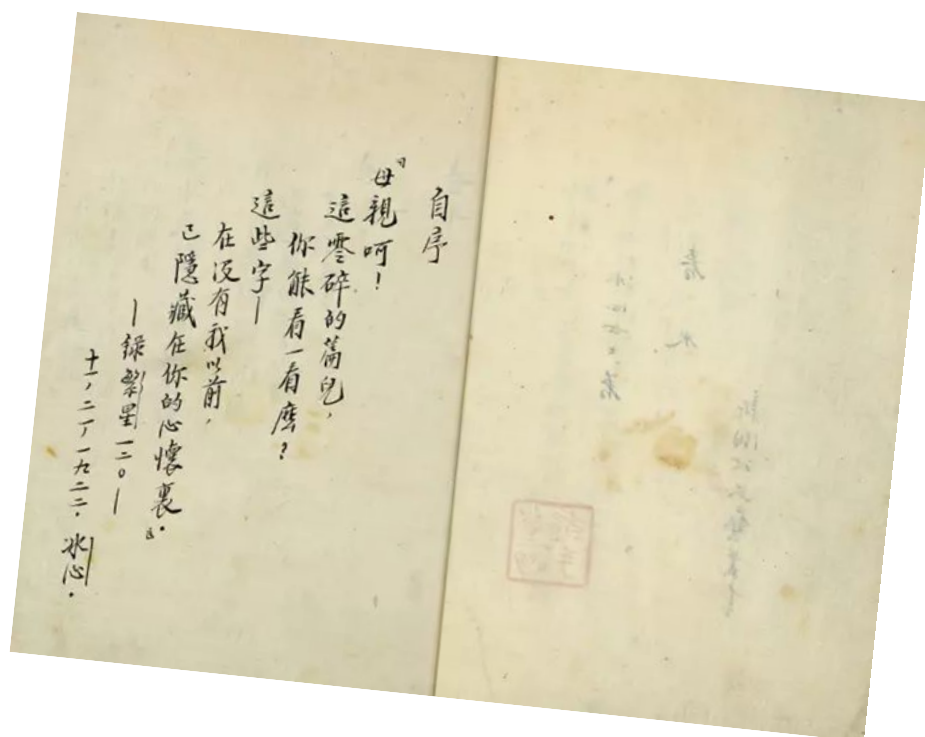
---

出版情報：人民中国微信版，2017-08-03。人民中国雑誌社  
バージョン：  
権利関係：



# 冰心《春水》亲笔原稿在九州大学发现

中里见 敬 人民中国 2017-08-03



前不久，日本九州大学公布，该校发现了中国著名作家冰心女士的诗集《春水》原稿。该校教授中里见敬先生特地为我们撰文，讲述了这部手稿的故事。我们翻译了他的文章并与原文一并推送给大家。



九州大学附属图书馆滨文库内收藏的《春水》手稿，已得到确认，确为95年前冰心先生的亲笔原稿。冰心（1900—1999，在日本也被称为谢冰心）是中国现代

文学的女作家代表之一。二战结束后，她曾在东京居住过大约5年，是一位和日本缘分颇深的作家。1950年时，她曾在东京大学任教一年，是东大历史上第一位女性教师。如今，中国小学、初中的语文教科书还在继续使用冰心的作品。冰心深受中国人的尊敬与喜爱，（她直至晚年仍笔耕不辍）被尊称为“文坛祖母”。



冰心晚年和小读者们在一起

当时，年仅21岁（1921年）还是一名学生的冰心创作了《春水》，口语化的自由诗生动自然，感情清新纯真。《春水》由此成为拉开中国新文学大幕的重要作品。从1922年3月到6月间，北京的报纸《晨报副镌》最先刊载了冰心的诗歌。当年11月时，为了出版诗集，冰心誊写了《春水》的原稿。在时任北京大学教授，于新潮社文艺丛书做主编的周作人（1881—1967）的帮助下，诗集于1923年5月出版发行。原稿则留在了周作人那里。

此冰心女士詩集春水原稿今秋整理  
書前不故詩中竟得轉眼已十八年  
吳村為裝訂寄贈

濱一衛君

知書記



中華民國廿八年十月七日在北平

周作人为《春水》手稿做题记

1939年10月，周作人整理书房时发现了这份原稿，便赠送给了一位名叫滨一卫（1909—1984）的日本年轻人。滨一卫1934年到1936年在北京留学期间曾经

寄宿在周作人家中。他研究中国的戏剧，后来成为了九州大学的教授，他的藏书现在收藏于九州大学图书馆滨文库中。

去年对外公开的“1939年周作人日记”中写道：“下午又整理旧报。得《春水》原稿，拟订以赠濱君。”于是，我们对滨文库进行了整理，发现了《春水》手稿。这就是此次发现原稿的全过程。

自序

母親呵！

這些零碎的篇兒，

你能看一看麼？

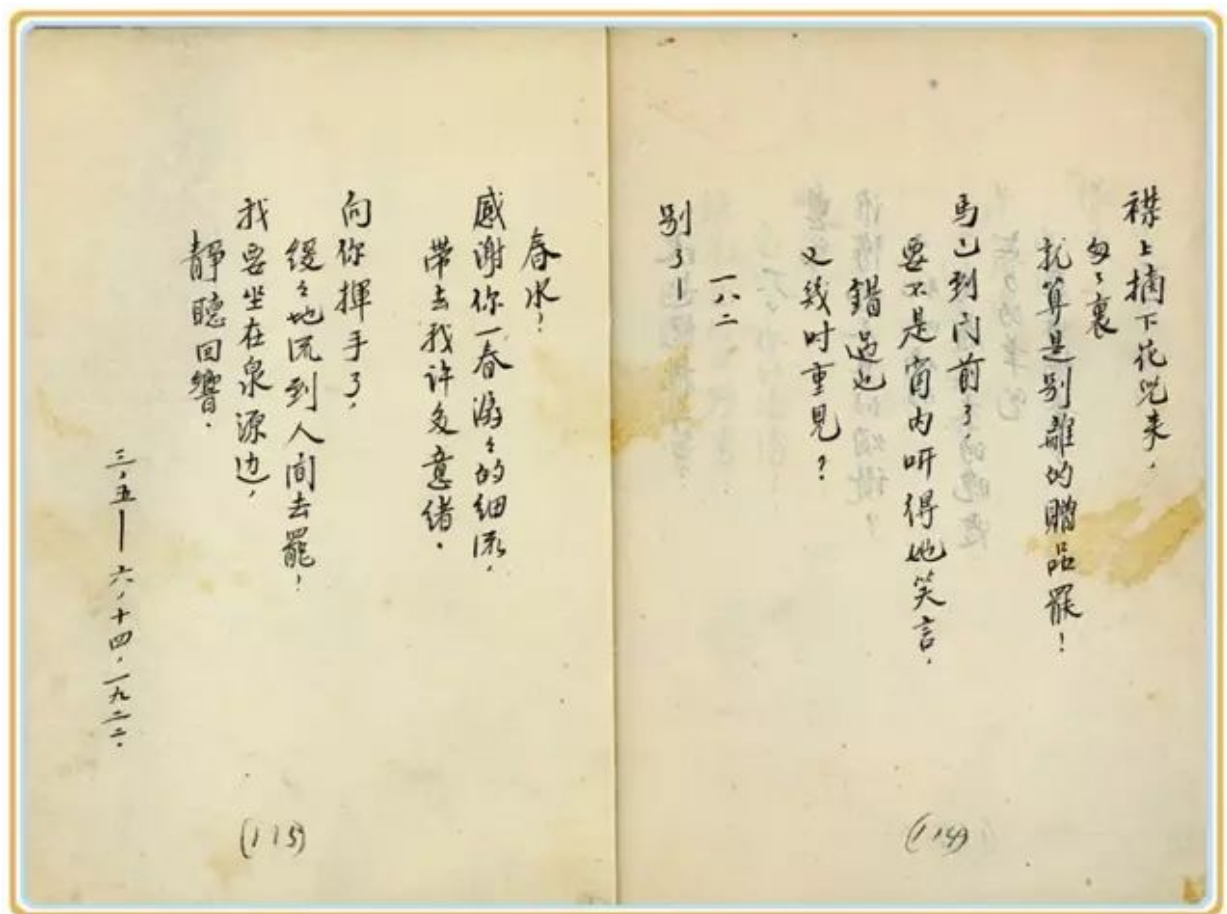
這些字——

在沒有我以前，

已隱藏在你的心懷裏。

——錄繁星三〇——

十一月二十一日一九二二 冰心



手稿最后一页P114、115

相关论文发表后，6月27日中国驻福冈总领事何振良和领事丁剑来到九州大学附属图书馆参观了《春水》手稿。何振良认真地阅读了《春水》，说自己上小学时听老师讲里面的诗还不太理解，到了现在这个岁数再去读它，就能深深品味出小诗中包含的哲理了。九州大学附属图书馆馆长宫本一夫用中文感慨道，在21岁时写下这样名作的冰心真是天才。丁领事对《小桔灯》《樱花赞》等冰心的作品也都非常熟悉。大家围绕着冰心和《春水》进行了畅谈。



何振良总领事（左）来到九州大学，认真参观《春水》手稿。中里见教授在旁介绍

总领事来访之际，九州大学的两名学生朗诵表演了《春水》里的诗歌，另外在中文桌，还有中国留学生给日本学生做讲解，九州大学里掀起了以留学生为主的《春水》小热潮。中文桌这个活动是学生们策划组织的，在午休时大家一边吃午饭一边用中文会话。除了主办活动以外，那些朗读《春水》的学生们还在积极地学习中文，他们获得了福冈市中文辩论大赛的奖项。其中一人已经确定毕业后进入报社工作，另一人将继续在研究生院学习研究。我期待通过这些活动，让九州大学的学生们更加深入地了解中国，将来毕业后活跃在社会各界。



在中文桌用中文谈笑风生的中日学生们

此次《春水》手稿的发现，对于九州大学来说不仅非常荣幸，也给予了学生进行日中交流的良好机会。很多中国留学生跟我们说，他们与自己国内的家人、朋友通过微信分享了相关新闻，对自己身为九州大学的留学生感到更加自豪了。我作为一名研究者也深感欣慰喜悦。

九州大学保留有很多名人的题词。孙中山先生1913年3月18日在九州大学演讲时曾挥毫题字“学道爱人”。毕业于九州大学医学系的郭沫若先生在1955年12月17日回到母校时，写下了“实事求是”和“福地万间广，精神有食粮。海天同永寿，日月与争光。”现在，这些墨宝中还要加上冰心的诗集《春水》的手稿。这份手稿作为日中交流的见证，我们将继续珍藏。

选编《春水》中的几首，供大家欣赏：

墙角的花！  
你孤芳自赏时  
天地便小了

春何曾说话呢？  
但她那伟大潜隐的力量  
已这般的  
温柔了世界了！

别了！  
春水  
感谢你一春潺潺的细流  
带去我许多意绪  
向你挥手了  
缓缓地流到人间去罢  
我要坐在泉源边  
静听回响

### 九州大学で冰心『春水』の自筆原稿を発見

九州大学言語文化研究院教授 中里見敬  
『春水』関連画像 = 九州大学附属図書館濱文庫蔵

このたび九州大学附属図書館の濱文庫に所蔵される『春水』手稿が、執筆から95年ぶりに冰心の自筆原稿だと確認されました。冰心（1900-1999、日本では謝冰心とも）は中国現代文学を代表する女性作家で、戦後の一時期、約5年にわたって東京に住むなど、日本とはとりわけ縁の深い作家です。1950年から1年間、東京大学で初めての女性教員として外国人講師を務めたこともあります。中国では現在でも小中学校の教科書に作

品が採用されており、「文壇の祖母」と呼ばれて中国の人々に敬慕されました。

冰心が21歳の学生時代に書いた『春水』は、みずみずしい感性を清新な口語体自由詩に表現したもので、中国新文学の幕開けを告げる文学史的に重要な作品です。1922年3月から6月にかけて、まず北京の新聞『晨报副镌』に掲載されました。詩集として出版するため、1922年11月冰心は『春水』の原稿を清書します。当時北京大学教授で新潮社文芸叢書の主編を担当していた周作人（1881-1967、魯迅の実弟）の尽力によって、詩集は1923年5月に刊行されます。原稿はそのまま周作人の手元で保管されていたのですが、1939年10月に書斎を整理していた周作人が見つけ出し、濱一衛（はま・かずえ、1909-1984）という日本人の若者に贈られます。濱一衛は1934年から2年間北京に留学し、周作人宅に寄宿していました。中国演劇研究者の濱は、その後九州大学の教授となり、現在その蔵書は九州大学の図書館に濱文庫として収められています。

昨年初めて公開された「1939年周作人日記」に、「下午又整理旧报。得《春水》原稿，拟订以贈濱君」（午後、また古新聞を整理する。『春水』の原稿が出てきたので、製本して濱君に贈ることにする）の一文が記されており、濱文庫を調査したところ『春水』手稿が見つかった、というのが今回の発見の経緯です。

論文発表後の6月27日には、中国駐福岡総領事館より何振良総領事と丁剣領事が九州大学附属図書館で『春水』手稿を参観されました。何総領事は熱心に『春水』を閲覧され、小学校で先生から教わったときにはよく理解できなかったが、この年齢になって再読すると、短い詩にこめられた哲理を深く味わうことができるようになった、と感想を述べられました。それに対して宮本一夫・九州大学附属図書館長は、そのような詩を21歳で書いた冰心は天才ですね、と中国語で応じました。丁領事も「みかんの提灯」（小桔灯）、「桜花賛」など冰心の作品には親しんでこられたとのことで、冰心と『春水』をめぐって話が盛り上がりました。

総領事訪問時には、九州大学の学生2名が『春水』の詩を朗読して披露しました。また、中国語ランゲージテーブルという活動の中で、中国人留学生が『春水』の詩を日本人学生に解説するなど、九州大学では留学生を中

心にちょっとした『春水』ブームとなっています。なお、ランゲージテーブルとは、昼休みに食事をしながら中国語で会話をする活動で、学生によって企画運営されています。『春水』を朗読した学生たちは、ランゲージテーブルを主催するほか、福岡市の中国語弁論大会で入賞するなど、熱心に中国語を学んできました。一人は卒業後、新聞社への就職が内定しており、もう一人は大学院へ進学して研究を続けたいとのこと。こうした活動を通して、中国を深く理解した九州大学の卒業生が各界で活躍することを期待しています。

このたびの『春水』手稿発見は、九州大学にとって光栄であるだけでなく、学生にも日中交流のよい機会を与えてくれました。中国人留学生からは、このニュースを国内の家族や友人と微信でシェアしました、九大の留学生であることをますます誇りに思います、といった声が多く寄せられました。研究者として大変うれしく思いました。

九州大学には、孫文が1913年3月18日に本学で講演した際に揮毫した「学道愛人」、および本学医学部卒業生で作家の郭沫若が1955年12月17日に来学した際の「实事求是」と「福地萬間廣、精神有食糧。海天同永壽、日月與爭光」の書などが残されています。これらに加えて、冰心の詩集『春水』手稿もまた、日本と中国の交流の証しとして今後長く大切に保管されることになるでしょう。

中里见敬 九州大学语言文化研究院教授

《春水》相关照片为九州大学附属图书馆滨文库藏品

翻译：王朝阳

图片：广冈今日子

---

《人民中国》  
2017年第8期  
当月5日发行  
点击图片可购买→